

2015年(平成27年)4月15日(水曜日)

よこまちが移動スーパー

高齢者支援 来月から、八戸で

食品スーパーを展開するよこまち(八戸市、横町俊明社長)は、軽トラックに商品を積み込んで販売する、移動スーパーを5月中旬にも青森県内で初めて開始する。高齢化の進行を踏まえ、牛乳の宅配などを手掛ける南山デイリーサービス(同、南山泰政社長)と

連携した事業。サービスは市内から始め、買い物困難な高齢者がいる複数地区を回る予定。店舗の大型化や県外企業の進出など、スーパー間の競争が激しさを増す中、地域密着を強化することにより独自色を打ち出す。

よこまちと南山社とは、高齢者の注文を受けて商品を届ける、買い物代行サービスを既にしていた。移動スーパーは、冷蔵庫を載せた専用車1台を使い、生鮮品や日用品など300商品を直接販売する。経路は買い物代行サービスのノウハウを生かして選定。各地区に週2回程度行

けるようにする予定で、高齢者の見守りサービスも併せる考え。運用状況を見て、地域拡大を検討する。よこまちの担当者は「店舗の大型化や郊外化などで、地元の商店がなくなり、買い物に行きたくても行けない人たちがいる。地域のスーパーとして、何とかできれば」と話した。(金澤一能)

くに店舗がなかったり、外出が困難な高齢者の利用を見込んでいる。

同事業は徳島市が発祥の移動スーパー「とくし丸」の営業方式を導入。移動販売車用に改造した軽トラックに生鮮食品やおかず、日用品など約300種類の商品を積み込み、客の要望に応じて自宅前まで出向く。巡回ルート一つにつき週2回訪問、1人暮らし世帯など、高齢者らの安否確認の役割も担う。

よこまち店舗運営部の横町正俊部長は「買い物困難な人たちの力になりたい。宅配ルートを持つ南山デイリーサービスの力を借りて(よこまちストアの店舗がある)五戸、三沢を含め、複数の巡回ルートを開拓できれば、台数が増えて雇用の創出にもつながる」と話した。(小橋徹)

「よこまち」が移動販売

来月中旬から 高齢者利用見込む

八戸市など県南でスーパー「よこまちストア」8店舗を展開する「よこまち」が5月中旬から、移動販売事業「とくし丸」を始めることが14日、同社への取材で分かった。同市郊外で近